

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10

内閣情報部監修

昭和十三年三月

310
138

歸還に方りて同胞に告ぐ

(附、陸軍記念日に方り今次事變に對する國民の覺悟を述べ)

時局資料

後

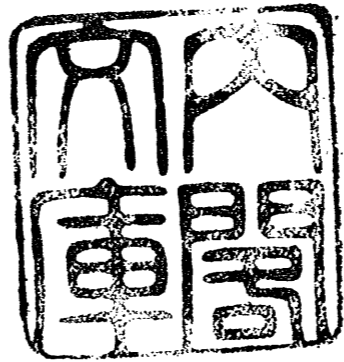
本稿は松井大將が昭和十三年三月二日東京中
央放送局より放送せられたるラヂオ講演の要
旨である。

310
138

凡 例

- 一、本書は時局認識の爲めの参考資料として編纂したものである。
- 二、本書の内容は成る可く廣く利用せらるゝことを希望する。
- 三、本書の全文を轉載し或は小冊子として刊行し又は一部を引用する事差支なく、
其の場合には掲載せるもの三部を内閣情報部（内閣總理大臣官舎内）宛送附せ
られ度。尙ほ特に複製希望の向は、本書の組版を利用する便宜もある。

内閣文庫	
八九四九七号	九冊
和書	



歸還に方りて同胞に告ぐ

私は松井であります。昨年八月大命を拜して以來半歳、江南の各地に轉戦致して居りましたが、此の度君命に接し帝都に歸還致す事になり、去る二十三日下關に上陸し懐かしの祖國に第一步を印しました。

上陸以來沿道各地に於て熱烈なる歓迎を辱うし、尙ほ東京驛頭に於ては官民の熱意籠る歡呼を浴び、二十六日葉山御用邸に伺候戰況を奏上復命致しました。凡てが感激其の者の外ありません。殊に 大元帥陛下には特に優渥なる勅語を下賜せられ、松井が軍司令官として錯綜せる國際關係と困難なる戦局との間に處し、克く皇軍の威武を中外に宣揚したるを嘉納あらせられ、尙ほ將兵の忠烈を惟ひ深く之を嘉みするの趣を傳へさせ給ひ、私はたゞく恐懼感泣致しました。蓋し中支方面の勝利は決して松井一個人の私すべきものでなく、全將士の勇闘の結果であるからであります。

歸還に方りて同胞に告ぐ

依て私は直ちに中支方面に於て尙ほ奮戦中の將士に對し之が傳達方を新司令官
畑大將に依頼致した次第であります。

顧るに昨年七月蘆溝橋に於ける支那軍の不法射撃に端を發しました今次事變が、
我が當局の熱心なる努力も其の甲斐なく、局面次第に擴大して遂に支那軍の暴戻
不遜なる挑戦に依り戦雲江南を覆ひ、我が陸軍も上海方面に派遣せらるゝこと、
なりました。松井乏しきを以て此の方面の最高指揮官たるべき重任を受け、八月
末上海方面に出動致しました。當時我が海軍は寡兵を以て克く優勢なる支那軍の
攻撃を阻止し、一步も我が租界を犯させず、續いて陸軍の敵前上陸に於ては眞に
密接なる協力を致され、ために頑強なる敵の抵抗を打破つて上陸に成功するに至
りました。

私は當時を回顧して先づ海軍の適切なる協同作戰に對し深く感謝の意を表する
ものであります。爾來軍は殘暑尙ほ堪へ難き中に江南特有の「クリーク」相連なる
險難なる地形の間に數年來準備構築したる近代式陣地帯に據る頑強なる敵に對し、

遺憾なく皇軍の傳統たる攻撃精神を發揮し猛攻に次ぐに猛攻を決行致しました。

而して蒋介石は直系の中央軍を上海方面に續々集中し、其の兵力は我に數倍し、
其の裝備もなか／＼優秀でありました爲に、流石我軍の精銳も一時は戦果を擴張
すること難く、作戰の進捗意の如くならざるものがありました。然るに我の猛撃
に敵は逐次其の精銳の大部を消耗し、爰に戦勢の均衡漸く破れ、十月下旬大場鎮、
江灣鎮を攻略して敵を陣地外に驅逐し、次で敗敵を追ふて十一月月上旬蘇州河を渡
河し、上海封鎖の態勢を完成致しました。時恰も柳川中將の率ゆる新銳部隊は敵
の虚を突いて杭州灣に敵前上陸を敢行し、爾來惡路を高級指揮官以下徒步急進、
破竹の勢を以て北方に又西方に突進し、これに應じ全軍總攻撃に移り、遂に崑山
附近に敵を包圍して大打撃を與へ所謂湖東會戦に快捷を博しました。

此の頃より支那軍の士氣は漸く衰へ、長年月を費して福山、蘇州の線、江陰、無
錫の線及磨盤山系の線等の要線に構築したる數帯の陣地に止まつて我軍の進撃を
阻止することも出來ず、皇軍は異常の快速を以て首都南京に潮の如く迫つたので

の機會に於て感謝の意を表する次第であります。

征戰六箇月松井は多くの部下を喪ひ、只々恐懼して居ります。松井の統率宜しきを得ず、陛下の赤子であり忠良なる軍人であり、又私にとりましては苦樂を共にしたる無二の戦友をかくも多數地下に送りましたことは、上、皇室に對し奉り下國民に對し御詫びの言葉を知らないところであります。

去る十二月十七日南京に於て大慰靈祭を舉行したる當時を回想し、今帝都にて靖國神社に詣て感慨無量であります。ただ、護國の靈安かれと祈ると共に、松井個人と致しましては只管殘骸を鞭うちて幾萬の英靈に對し報ゆる所あるべきを期して居る次第であります。

國民政府は首都陥落後尙ほ長期抗戰を唱へて居ります。支那國內には最近經濟的にも政治的にも大小の難問題が續發して居ますが、依然國民政府は多年抗日の毒酒に酔つて居る國民を驅つて尙ほ一脈の生命を繼いで居るのであります。支那軍は大體に於て全面的に既に士氣沮喪して居ますが、尙ほ抵抗を全く斷念せず、

中支那方面に於ても杭州及蕪湖方面の外、揚子江北岸に於ては蚌埠附近に於て攻勢の氣勢を示して居ります。蔣介石は敗戦後軍の再建設に努力して居りまして、著々兵員を補充し應急の訓練を致すと共に歐米諸國より武器彈藥の供給を圖り以て戦力の回復に狂奔して居ります。勿論かくの如き大打撃を蒙つた後の支那軍の建設は短時日の間にこれを成就することは固より困難であります。決して輕視することを許さないのであります。

翻つて國民政府は舊態依然たる以夷制夷政策に終始し、可憐なる民衆を塗炭の苦に陥れて顧みない現状は、東亞平和の大局から觀察致しまして、眞に歎かはしき次第であります。我國と致しましては、過般帝國政府が聲明しました如く、最早國民政府の動向などに意を介することなく、當初の方針に基き斷乎抗日武力を打破して聖戰の目的貫徹に一路邁進するのみでありまして、之が爲朝野を擧げて一致團結徒らに右顧左眄することなく、凡百の困難に堪へて長期戦に臨み以て有終の美を濟すの覺悟を要するものと確信するものであります。今次聖業結局

の成功は固より唯々我が武威の宣揚を以て足れりと致しませぬ。即ち我が皇道の眞價を洽く中外に發揚し、支那四億民衆をして眞に自ら省みて我を尊敬し、我に信倚するに至つて始めて此の大業を完成するのであります。顧みて此に至れば、我等國民は一方支那不逞の徒を膺懲するに努力すると共に、他方善良なる支那民衆に對しては之を憐み之を慈み之を愛護するの美德を顯揚することが却て極めて重要な事項なりと信ずるものであります。

明治天皇御製

仁

國のためあたなす仇はくたくとも

いつくしむべき事な忘れそ

とあります、目下の時局に於て大に鑑とすべきこと、信じます。

次に此の機會に於て私が國民諸君に對し特に御願ひしたいことは、銃後の後援就中遺家族に對する扶助につき今後一層の御盡力を願ひたいこととであります。陣

歿の戰士は固より不幸戦傷により一生涯を不具として送るべき運命を持つに至りました將兵は、齊しく戦場の勇者であつた如く生活の戦線に於ても亦強健にして有爲、しかも尙ほ春秋に富む人々であつたのであります。斯くの如く一家の核心たるべき人を喪ひ、或は之を不具者として迎ふる遺家族の精神的不幸は勿論、物質的損失が如何ばかりであるかは察するに餘りある次第であります、之等不幸なる遺家族に對する扶助の強化は最近官公衛當局に於ても既に夫々適當なる措置を講ぜられ、從來に比し格段の進歩を示して居ることは事實であります、民間に於ても夫々の立場に於て能ふる限りの慰藉の途を講ぜられ、所謂一國一家億兆一心の我國の美風を發揮せられんことを切望致す次第であります。又戦場を馳驅し幾度か死線を越へて歸還する兵士達に對しましては、彼等の大部分が事變と共に各自の生業を擲つて勇躍君國の爲征途に就いた人々であることを願慮せられまして、なるべく速に戦場の勇者をして生活の安定を得しむることにつき諸賢の深き御配慮を煩はしたいと存じます。

歸還に方りて同胞に告ぐ

之等のことに對し、官民共に努力を拂ふことは、嘗に遺族、家族自體の慰藉たるに止まらず、戦地にあつて奮戦する將兵一般に對して深き感銘を與へる所以であります。皇軍は之に依り士氣益々振ひ必勝の信念は愈々鞏固となること必然であります。私が只今國民各位の御援助をお願いする理由の一つも實に茲にあるのであります。

既往を顧みますれば、陣營の勞苦戦捷の歡喜交々去來し感慨まことに切なるものがあります。現實を觀ずれば功なくして天寵を辱くし、國民の歡呼を浴び感激に堪へません。此に終りに臨み再び出征以來又歸還に方り全國同胞各位より賜りたる御厚志に對し、謹んで滿腔の謝意を表してこの講演を終らうと存じます。

陸軍記念日に方り今次事變
に對する國民の覺悟を述ぶ

本稿は三月十日陸軍記念日に方り松井大將が
日比谷公會堂に於て爲したる講演の要旨であ
る。

陸軍記念日に方り今次事變に對する 國民の覺悟を述ぶ

今や帝國內外の情勢は有史以來未曾有の重大時局でありまして、皇國の興廢は
一に懸つて我等國民の決意如何にあります。此の秋に當つて意義深い第三十三回
陸軍記念日を迎へますことは寔に感慨無量なるものがあります。

惟ひまするに八紘一字億兆をして皆其の處を得しめることは、我が肇國の大精神
であり、又國際正義に立脚して東洋の平和を確立し、世界平和に寄與せようとい
ふことは我が不動の國是國策であります。今こゝに諸君と共に聊か日露戰役當時
を追懷致し度いと存じます。

日清戰役によつて我國が遼東半島を譲り受けましたところ、露國は之を以て東
洋平和に害ありとして、他國を誘つて我國に對し所謂三國干涉を行ひ、我國が其の
要求を容れて之を還附致しますと、直ちに自ら滿洲の侵略を企圖し、更に義和團

陸軍記念日に方り今次事變に對する國民の覺悟を述ぶ

事件に際し之を口實として大兵を滿洲及北支に進め事件終熄後も依然として駐兵し、却て益々露骨な滿洲經略を進め、遂には鴨綠江北岸に兵力を移動して朝鮮半島を脅威する等、東洋平和の攪亂、國際道義の蹂躪等、不徳横暴の限りを盡し數度の我が交渉も何等の好果を得ず遂に戰爭を避くべき何等の手段が残されなかつたのであります。もし我方が退けば朝鮮は露西亞のものとなり、延いて帝國の存在を危殆に瀕せしめます。起たうとしても、必勝の成算は期し得られない有様でありました。坐して滅びんよりは、起つて力のあらん限り戦はう。

きり結ぶ刃の下は地獄なり

身を捨て、こそ浮ぶ瀬もあれ

これが當時我が上下を蹶起せしめた心理でありました。當時我が國民の決意の程を物語る話で、已に人口に膾炙して居る所であります。時の樞密院議長伊藤博文公は、日露開戦の廟議決定後、次の如く悲壯なる決意を漏らされた由であります。「今度の戦は實に陸海軍でも成功の見込はついてゐない。………そこで

萬一にも我軍が朝鮮で破れ露軍が侵入して來た時は、及ばずながらこの博文も、昔の北條時宗の故事に倣うて自ら武器を取り身を卒伍の中に投じ、自分の家内も時宗の妻女に見習はして、兵食の炊爨にあたらせ、夫婦共々九州なり山陰道なりに出かけ、残つた國民と共に海岸を守り、一步たりとも露兵を日本の土地に上らせない決心である」と。

臥薪嘗膽十年、誠に國を擧げての決死の戦争でありました。或は帝大七博士の主戦強硬論となり、或は横川省三、沖禎介等民間志士の奮起となり、上下貴賤老弱男女を論ぜず、眞に舉國一致國難に當つたのであります。松井も當初第三師團の一中隊長として出征し一度遼陽會戦に負傷しましたが、幸に傷淺く能く戦地に留まつて最後迄御奉公をすることを得ました。今より往時を回想すれば感慨極めて深いのであります。思へば此の大勝は東洋の一島帝國たる日本が世界最強の露國を屈伏せしめた誠に意義深き歴史的事實でありまして、之に依り帝國は東亞を覆滅の危機から救ひ、その確固たる安定勢力たり得るの基礎を築いたのであります。

陸軍記念日に方り今次事變に對する國民の覺悟を述ぶ

そして本戦争の結果として東洋の日本が一躍世界の日本となり、世界の數多の劣弱なる小國が我が帝國の眞の姿を仰ぎ見て窃に範を我に採らむとするに至つた事は又重大なる歴史的事實であります。更に進んで此の勝敗の由つて來る所以を静観しますと、もとより幾多の原因が存するのですが、要は我が開戦の名が正しかつたこと、國民舉國一致の意氣の旺盛であつた事が、其の主なる原因であり、戦争繼續一ヶ年八ヶ月の久しきに亘り約二十億の國帑と十萬の犠牲(戦死 一四三、〇〇〇)とを拂つて毫も屈しなかつた國家國民の決意が此の結果を齎したのであると確信します。不幸にして當時、我が國力は未だ充分でなかつたため、遂に露軍を全滿洲の地より驅逐するに至らず、我軍は長春以南の南滿地方を占領するに止まつて、彼の「ルーズベルト」米國大統領の仲介によりて兩國の和議を結ぶ事となり、滿洲の禍根は此に残存して遂に其の後の滿洲事變、今次の日支事變遠因を爲すに至つた事は今更ら乍ら遺憾に耐へない所であります。

爾來帝國は辛苦經營、滿洲の開拓に當ること三十年、今日では日本人ばかりで

なく、滿洲民族、蒙古民族、漢民族等齊しく其の恩恵に浴し、滿洲の人口は急速に膨脹し、年と共に其の繁榮を加へて參りましたが、禍根がまだ全く剔除せられなかつた結果、纏て此の地に東北軍閥の勢が昂じ、その私利の爲めに三千萬民衆は搾取せられ、その上滿洲の開発繁榮の爲めには最大の恩人たる日本人をも理不盡にも滿洲から逐ひ出さうとしたのであります。これは申すまでもなく、南京政府に操られた、彼の張學良政權の迷妄の致す結果でありまして、滿洲に於ける我が國民は將に狡兎死して走狗烹らるゝの破目に陥らうとしたのであります。この不義、不法を膺懲して、そこに蟠る邪惡を芟除したのが昭和六年に於ける滿洲事變であります。

か様にして滿洲には、今日では我が帝國と一徳一心、不可分關係を結ぶ完全な獨立國家の建設を見るに至りましたことは御同慶の至りであります。

南京政府は依然として其の歐米崇拜思想を改めず夷を以て夷を制するの政策、殊に恐るべき所謂容共政策を固持して全然自己の非を悟ることなく、或は失地回復

の名の下に國民を煽動し、或は反日反滿思想を鼓吹して日支の國交を危くし、勢の赴く所遂に昨年七月、かの北京郊外蘆溝橋の不法射撃となり、又通州の我が同胞虐殺事件ともなり、遂に今次事變を見るに至りました。今や皇軍は皇謨翼贊の神兵として、支那南北戦線に馳驅して、日夜國家の爲めに健闘致して居ります。

かうした深刻複雑なる事情の下に勃發致しました支那事變は、もとより一朝一夕に解決し、或は單に軍事的勝利だけで終局に至るべき性質のものではなく必ずや東亞を繞る國際全般の關係から、國家百年の大計に基づいて、永久的に對處せねばならぬ回天の偉業でありまして、前述の如く、遠くは日清日露の兩戰役、近くは滿洲事變をも包括しての總決算を爲すべき重大時機であり、東亞は勿論のこと延いては全世界を國際正義、共存共榮の正道に復歸せしむべき一大轉機とも謂ふべきであります。

そして帝國が隣邦相和し、東亞に正しき共存共榮の新天地を建設せんとするのは、是れ一貫不變の國是であります。しかもこれこそ東亞の自立、延いては世界

の正しい平和、人類の永劫なる福祉の爲、緊要缺くべからざる國際正義の要求であり又人類相愛の叫びであります。

今次事變は、上は 大元帥陛下の御稜威を辱うし、下に皇軍の目覺しき活躍と、統後國民の熱誠とに依り、過去八箇月間に於ける成果は甚大なるものがあります。此の間支那軍は、當初の自負にも似ず到る處に慘敗を續け、軍事的には勿論、政治的にも、經濟的にも多大の打撃を受け、従て今や其の主力軍を以て我と正面衝突の上雌雄を決するなどは殆ど不可能の状態でありまして、今後は専ら歐米列強の援助に頼つて其の頽勢を挽回しつゝ、緩慢不規なる抵抗に依つて長期戦を策して居ることは諸君已に御承知の通りであります。

思へば國民政府は長年月に亘つて植ゑつけた排日侮日教育の爲、今や窮地に陥りながら其の面目維持の爲、長期抗戦に狂奔して居りますが、之を可能ならしめる最大の推進力は、思想的には「コミンテルン」、武力的には列強よりする多量の武器、更に各種經濟的援助であると申さねばなりません。固より之等の國の援助も

我が國としては深く恐るゝに足らぬものでありますが、支那軍が之に依り纔に抗日意識を維持して居るのは遺憾ながら事實であります。

支那の之の現勢の間に處する彼等歐米諸國の動向は我が國として常に戒心を要する所でありまして、我等の覺悟する所謂長期戦の蔭には常に二、三強國の觸手が動いて居る事を顧念する必要があります。茲に時局の重大性があり、之を乗切る爲には徹底した準備と覺悟を要する事は當然でありまして、軍備の充實、近代化の必要は今更ら申上ぐる迄もなく、更に長期戦の特性と資源に恵まれない我が國の現状とに考へ、且つ又國際狀勢の豫期し得ない轉換を考慮致しまして、物心兩方面に亘り、武力、經濟力其の他總ての國力を擧げて長期に亘り有効に使用すべき所謂國家總動員を準備する事は頗る緊急であると信じます。

國際情勢の僅かな一張一弛に氣をとられて、其の根柢をなす傳統的國策を正視する事なく帝國百年の計を論ずるのは危険至極でありまして、殊に今時悠暢なる樂觀的議論に時を費すべき時機ではないのであります。我軍は現になほ南北各地

八

の戦線に於て銃火を交へつゝあるが、さもなければ我に數倍する支那軍と満を持して對峙中でありませう。翻つて思ひますに既に第二期戦に入つたといはれる長期戦の目的は、今單なる武力的膺懲でもなければ、まして國際正義の反逆者四億支那同胞の公敵たる、かの國民政府に反省を求めんとするばかりでもありません。否此の國民政府を一日も速かに潰滅し、之に代ふるに直に提携するに足る新興支那政權の成立發展を助長し、之と日支兩國々交を眞に調整して更生新支那の建設に協力し以て東亞永遠の平和を所期するものでなくてはなりません。

茲に長期戦の目的が存するのであります。その更生新支那を建設するためには一にはかの「コミンテルン」並びに「ソ」聯邦の惡辣なる指導援助による、中國共產黨及び共產軍の赤化の跳梁から現支那を救ひ出し他は以て多年馴致せられたる夷を以て夷を制する彼の傳統的外交手段が過去に於て如何に支那を誤つたか、殊に現在に於て如何に自國を危殆に瀕せしめてゐるかを眞に之の機會に於て反省せしめ、支那の根本的革新と救済とに乗り出し、之の國際正義に忠實なる我が帝國の

陸軍記念日に方り今次事變に對する國民の覺悟を述べ

九

盟邦として、相率る相携へて東洋平和の礎石たらしめるにあると思ふのであります。所謂第二期長期戦は之の目的を達する爲め確乎たる國民の決意を緊要なりと考ふるのであります。

戦線に立つ將兵が常に最大の關心を持つものは、實に國論が確乎として一致してゐるかどうかでありまして、國論の一致なくしては彼等將兵をして後顧の憂なからしむる事は不可能であります。國民諸君の熱誠溢れる銃後の後援も舉國一致の強き輿論を背景にして、初めて皇軍を激勵し得るのであります。

日露戦争が局を結んだ當時日本に居りました英國公使は「日本軍の戦勝の大半は銃後國民の後援による」と喝破し、又戦後「ロシア」參謀本部が其の勝敗の原因を眞剣に研究した結論は日本軍の背後に燃ゆるが如き銃後の熱誠があり、之に反して「ロシア」に之の力が全く無かつた事であると申して居る位であります。今次事變に於ても事變勃發以來國民銃後の熱誠は、正に日本獨特の美しき面目を遺憾なく發揮致して居りました之の點無限の心強さを感じずる次第であります。

今次事變勃發以來、第一線將兵の忠勇果敢なる行動は、已に周知の事實であります。戦死三時間前に、第一線塹壕で、郷里に唯一人残しておいた病床の老母に對し、人の子としての最後の孝養をなし得ない罪をわびつゝも、なほ直後に迫れる戦死を、天皇陛下の御爲であり、又之を最大の孝養と念じて、笑つて死地に身を投じた者、又今は母なき幼兒に對し、遙か異郷の戦場から、父の歿後に於ける將來を諄々として教へさとしつゝ、最後の筆を「父に會ひたくば靖國神社へ來れ」と書き遺しつゝ、天晴れ戦場の露と消へた忠勇な將兵の心持の前に、誰れか肅然と頭を下げるものがありますか。之の至誠純忠の心のみが古來日本を眞に護り通して來たのであります。

事變は既に長期戦となり、國民は第一線に立つと否とを問はず、悉く報國の使命を負つてゐる今日、舉國國民は之の上乍ら、銃後の經營、銃後の赤誠に全力を盡し、確乎不拔の一絲亂れざる國論によつて、暴戾なる國民政府並其の軍隊を潰滅せしむると共に新政權の樹立發展に十分の協力を與へ、他方嚴に列強の策動を排

して、以て今次事變の抜本塞源の解決を期すべきであります。

國民に之の決意があつてこそ始めて皇軍の士氣も振ひ、特に犠牲となつた數多の英靈も慰められ、又銃後國民の努力を愈々意義あらしめ眞に日支共存共榮の新生面を展開せしめ、東亞永遠の平和を招來するの途であると固く信ずる次第であります。

なほ茲に私が特に諸君に申し述べたい事は支那事變の眞の目的は既に申し述べましたやうに決して單なる支那膺懲ではないことであります。固より國民政府其の他の眞に懲すべきものは飽く迄徹底的に之を懲らさねばなりません。支那四億民衆の大部分は、寧ろ無辜のものであり、又可憐なものであります。従つて本事變に於ける我が國民の支那民衆に對する心持は飽く迄之を憐み、之を慈み、之を愛護して、寧ろ其の可憐の窮狀より之を救脱し、之を抱擁して眞の日支提携に至るの用意が最も大切なのであります。我等の心情が眞に我が皇道の精神に徹底し、所謂八紘一宇の大精神の心に副ふてこそ、始めて本事變終局の目的を大成し、

聽ては支那四億民衆のみならず、亞細亞十億の同胞を併せ率ゐて眞に東亞の復興、世界の平和に達し得るのであります。

なほ終りに臨み申添へたい事は、此度私半歳振りに歸國して國內の様子を一瞥致しました所、國內一般の空氣が餘りに戰爭氣分の發現を見ない事であり、其の事情が果してどういふものか未だ之を斷定することを得ませんが、我が國現下の國情國民の心理になほそれ丈の餘裕があり、沈著があり、悠々迫らざる態度があるに依るものなれば、誠に慶賀すべき所であり、萬一さうでなく國民が不用意に時局を樂觀し、支那を輕侮し、勝に誇りて小成に安んずる氣合が幾分でも存するとしましたならば、私は茲に深く憂慮すべき結果にならうと思ひ同胞各位に對して深い反省を促さなければなりません。我々の國民性が常に一時的に熱して、しかも容易に冷めやすい缺陷があるといはれるだけに特に之を諸君の前に高唱したる所以であります。これ固より私一個人の理想からいふのではなく、最近迄彼地に轉戦して幾多の犠牲者を出させたる私の公的責任、義務心からして、特

に之を滿堂の各位に訴ふべきものと信ずるが故であります。

又一面には三十餘年前、日露戦争終末の結果を顧念して前車の轍を踏むことのないやうにと深く憂ふる結果でもあります。

考へて見まするに我國の現状は、最早や議論の時機ではありません。國策の定まる處、國策の要する處、國權の赴く處に向ひ一億民衆皆所謂大同無我、小異を捨て、大同に就き舉國一致、億兆一心、其の嚮ふ處に奮迅すべきものであると信ずるものであります。私は此の機會に於て特に同胞各位の前に之の苦言を呈するところが決して無用でないと思つて遺憾ながら信ずるものであります。

こゝに滿堂の諸君と共に謹みて聖壽の萬歳と皇國々運の隆盛を祈念し、尙ほ今次事變に於て護國の神となられた幾萬英靈に對し心からの感謝の誠を祈り、併せて第一線に活動される我が將兵の武運長久を祈りつゝ、本講演を了ります。

昭和十三年三月十九日印刷發行

發行者 内閣情報部

印刷者 東京市麹町區永田町一丁目四番地 小林又七

印刷所 東京市麹町區永田町一丁目四番地 小林又七印刷所

